

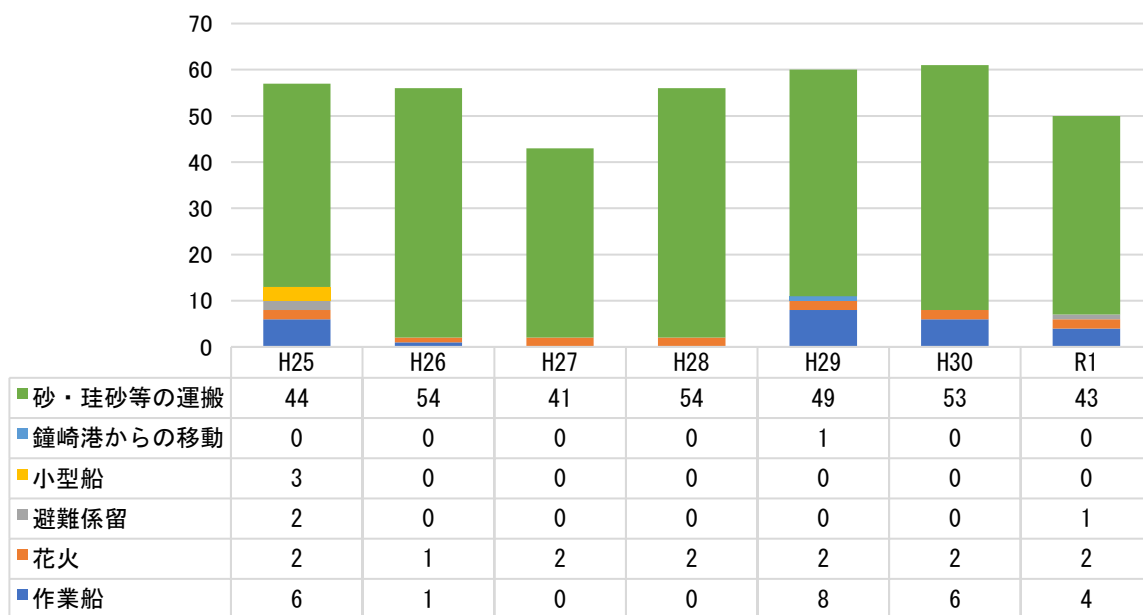
芦屋港の利用状況

芦屋港は、主に砂・珪砂などの移出入に利用されています。

福岡県港湾統計データ（暦年で集計されています）より、平成 25 年からの利用状況について、船の入港回数と取扱貨物量についてまとめました。

■ 芦屋港への入港回数と内訳の推移

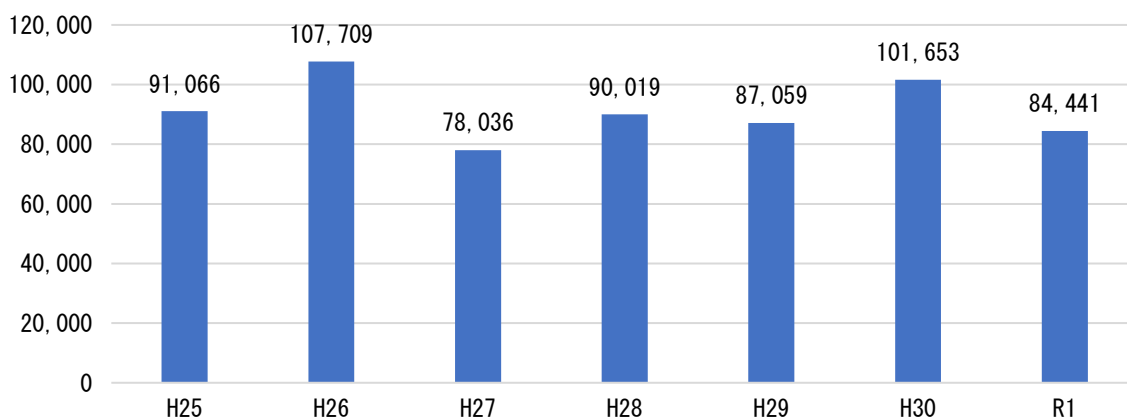
〔単位：回〕



・平成 25 年から令和元年までの入港回数は、平均で 54.7 回。年間で 6.7 日に 1 回の頻度となっています。

■ 芦屋港の取扱貨物量の推移

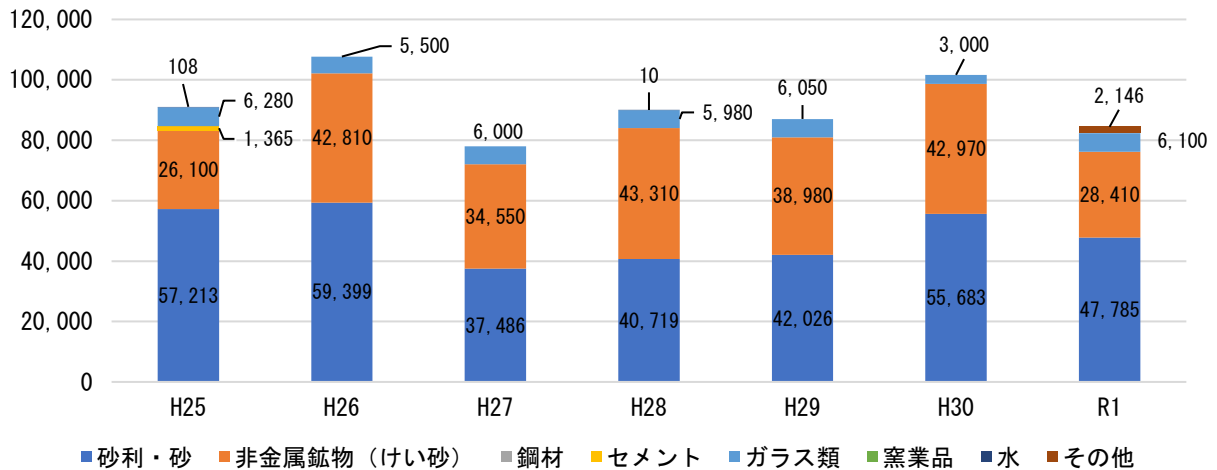
〔単位：トン〕



・平成 25 年から令和元年までの取扱貨物量は、7 万～10 万トン/年で推移しており、芦屋港港湾計画（福岡県策定）に掲げる目標値 13 万トン/年からも低位に推移しています。
※数値は水産物を除いたものです。

■ 芦屋港の取扱貨物の内訳の推移

[単位：トン]



・ 芦屋港で取り扱う貨物の内訳と量の推移では、砂・砂利が最も多く、次に非金属鉱物（けい砂）、ガラス類となっています。

■ 福岡県内の港湾一覧

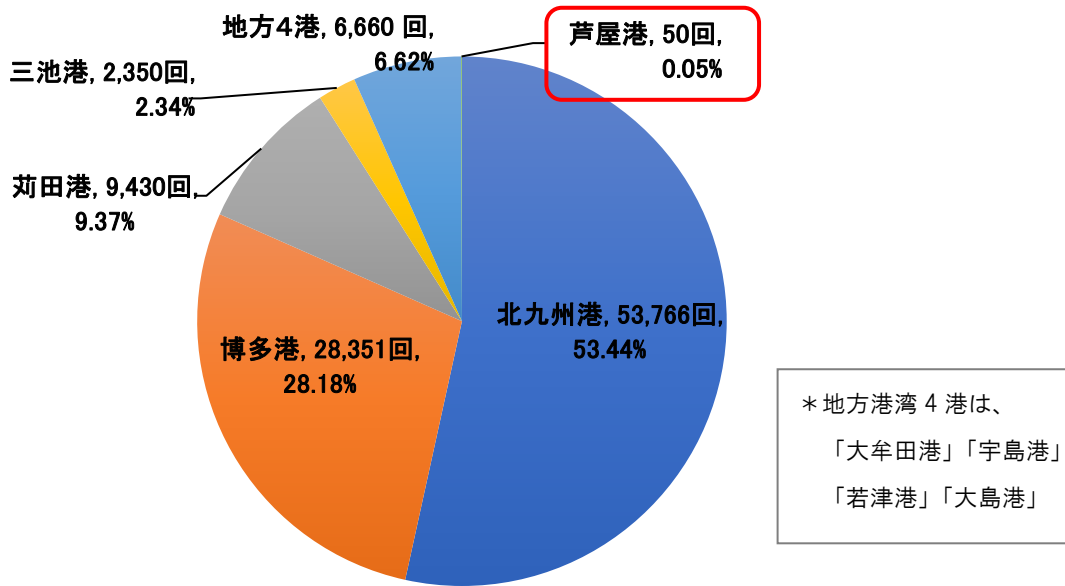
芦屋港の利用状況を福岡県内の港湾と比較するため整理しました。

(福岡県県土整備部港湾課資料：令和元年)

港湾名	管理者名	種別	総トン数	取扱貨物主要品目(内国貿易)
北九州港	北九州市	国際拠点港湾	98,600,057	フェリー、完成自動車、鋼材、セメント、砂利・砂
博多港	福岡市	国際拠点港湾	37,110,802	フェリー、その他石油、完成自動車、揮発油、砂利・砂、取合せ品
苅田港	福岡県	重要港湾	36,004,962	自動車部品、セメント、完成自動車、非金属鉱物、砂利・砂
三池港	福岡県	重要港湾	1,906,057	揮発油、その他石油、化学薬品、重油、原塩
大牟田港	福岡県	地方港湾	90,835	砂利・砂
宇島港	福岡県	地方港湾	264,510	砂利・砂、木材チップ、石灰石、重油、石油製品
若津港	福岡県	地方港湾	1,750	重油、軽油
大島港	福岡県	地方港湾(避難港)	174,210	フェリー
芦屋港	福岡県	地方港湾	83,565	砂利・砂、非金属鉱物、ガラス類、水産品

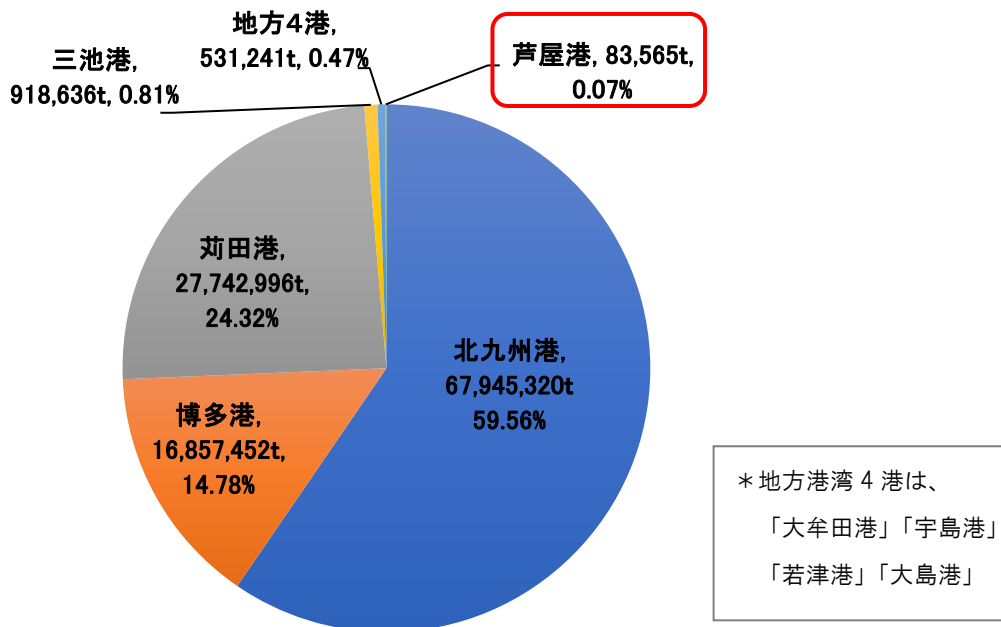
* 注意 一覧表の「取扱貨物主要品目」は、外国貿易と内国貿易(国内)に分類されていますが、ここでは内国貿易のみを抽出しています。外国貿易の取り扱いがあるのは、北九州港・博多港・苅田港・三池港・宇島港の5港となっており、「総トン数」は外国貿易と内国貿易の合算値となります。

■ 令和元年の福岡県内港湾（全9港湾）との入港回数比較



・ 令和元年の福岡県内の港湾における入港船舶数実績は、100,607回となっており、北九州港と博多港で全体の80%以上を占めています。そのうち芦屋港は50回で、福岡県全体に占める割合は0.05%と非常に低くなっています。

■ 令和元年の福岡県内の港湾（全9港湾）の取扱貨物量比較（内国貿易のみ）



・ 令和元年の福岡県内の港湾における内国貿易（国内の貿易）の取扱貨物量は、114,079,210フレート・トンとなっています。そのうち芦屋港の実績は83,565フレート・トンで、福岡県全体に占める割合は0.07%と非常に低くなっています。

※ フレート・トン：港湾における貨物の運賃や港運料を計算する際に用いる、貨物の単位のこと。フレート・トンは、1.133立方メートルの容積、あるいは、1,000kgの重量を1トンとして容積と重量のうち大きい方を採用する。